

「紀伊山地新宮川水系 はじまりの一滴を訪ねて」

昔の日本人は水をととても大切に思い、水ができる山岳地を大切に思っていたそうです。私たちが住んでいる奈良県天川村洞川には環境省名水百選に選ばれた洞川湧水群がありとてもおいしい水が湧き出ています。この様な環境の中、村の人々は水と深いかかわりを持ち暮らしています。そのような事に思いをはせながら、私は家族と共に「紀伊山地新宮川水系はじまりの一滴」を訪ねました。私の家の前には、山上川という川が流れています。その上流部へ行けば「はじまりの一滴」へたどりつけるはずですが、私は「山上川に沿って車で行く終点である「レンゲ辻」登山道入口まで行きました。さあ、ここから旅の始まりです。登山口周辺は、人工桧がたくさんはえていました。道下の川幅は広く源流からはほど遠いような気がして気が

天川村立洞川中学校 二年

更谷 ほたる

遠くなりそうでした。そこから歩くにつれ天然林が増えコケがたくさんはえていて、しめっぽくなってきました。すると岩に大きな木がはえていました。太い根がタコの足のようになり大きな岩をつかんでいました。薄土の岩に木がはえているのが不思議でした。でもその下に川が流れていて、その水で育っているのかなと思うと水は大きな木を育てるほど大きな力をもっていることを実感しました。そこからまた歩くと倒れた木から小さな芽がはえていました。死んだ木から新しい命が生まれていて、命はつながっているんだなと思いました。それはまた歩くとあることに気づきました。それは同種類の草が密集していたことです。その植物は、赤紫色のスカートみたいな花をつけていました。里では見たことのない不思議な形の花でした。そしてまた歩くと「魚止

めの滝」がありました。その滝は、夜に川のぬしがでそうでした。「魚止めの滝」より上は、川幅がより一層狭くなっていました。

そして登山道も急になつてきました。見える川幅は狭いのですが、水はまだ流れていて「はじまりの一滴」には程遠い感じがしました。坂が急なので、少し登っては多く休むことの連続でした。もう登るのをやめようかと思いましたが。2時間ほど歩いていて川の流が三つに分かれその左側にそって登山道がありました。父と弟は先にいき私と母はほとんど引き離されました。すると遠くから「あつたぞ」と父の声がしました。そこを無我夢中でめざしました。そしてそこにつくとたしかに水が少しづつでていました。そうです、「紀伊山地新宮川水系はじまりの一滴」とやつと出会いました。小さな穴から湧き出ていました。私はこの小さな小さな一滴が大きくな大きな太平洋とつながっていることが信じられませんでした。こんな小さな小さな一滴でも太平洋をつくるほど大きな力をもっていることにすごく感動しました。

この水が太平洋とつながっているように、

水はたくさんの人・自然・動物とつながっており、この小さな小さな一滴を昔の人が大切に生きてきたように私たちも大切にしなければいけないと思いました。そして私たちにできることは、一滴の水を守るために、一滴の水と出会う前に出会った、たくさんの方をこれからも守っていくことだと思います。そしてたくさんの方の生き物に感謝し、その生き物を支えている水に一番感謝しなければいけないと私は思います。最後に、これから私は今回の感動体験、一滴の水に手を触れたときの冷たさ、おいしさを思い出しながら、コップ一杯の水を大切にし、節水に努めていきたいと思えます。